

平成 21 年度地域情報化アドバイザー会議分科会成果報告書

1, 分科会テーマ : ICT を活用した地域コミュニティの活性化 (第二分科会)
2, ICT 利活用の現状
<p>◆成功した事例 (成功の要因を具体的に記述)</p> <ol style="list-style-type: none">1. 人が花で動いているというニーズから、京都において、花の情報配信をリアルタイムで配信している。 ⇒配信者に、実益があるので持続性モデルでき、内容の充実、拡大も行っている。2. 「みんなの経済新聞」全国にインターネットの新聞事業で、国内 49 エリア、海外 3 エリアをカバーし、600~700 万アクセスある。住民と行政をつなぐ N P O のような地域組織が、持続するためには必要である。 <p>◆失敗した事例 (失敗の要因を具体的に記述)</p> <ol style="list-style-type: none">1. 地域社会の閉じたクラスターで、マンネリ化した情報交換の中でのシステム活性化は成功しない。
3, ICT の導入・全国展開に当たっての課題
<p>◆制度的な問題点</p> <ol style="list-style-type: none">1. 情報化の最大の問題「継続性」「持続性」 <p>◆技術的な問題点</p> <ol style="list-style-type: none">1. 災害関係では、行政、一般コミュニティなどそれぞれの立場で求めている情報精度が違う。2. 情報システムには、脱地域性が必要あり、その仕組みをどのように入れるかが課題。 情報システムと外部のボランティア団体を連携する仕組みが必要。3. 地域サイトの構築では、複数の既存のネットワークと外の有能な人材をつなぐ仕組みが課題。 <p>◆人的な問題点</p> <ol style="list-style-type: none">1. P C が使えない人は、メリットがないと継続的に使ってもらえない。2. ICT と親和性をもたない既存コミュニティは、地域課題レベルが異なり対応が難しい。

3. 町内会連携では、Web（システム）というより、Web やメディアでどんな人材が発掘できるかが問題。

4. 課題解決に向けた提言

1. システム構築にあたり、使う側と運営側が協調すべきである。使えるものを作る。

2. 持続のためには、資金と仕組みが必要で、スタート時から作り込むこと。

3. 既存組織との連携（リアルとバーチャルの連携）は、資源活用が重要。

4. ニーズ、人材の発掘が地域情報化の中で意義がある。